

2000年代

組合員数 供給高	活動エリア (赤字は新たに 加わったエリア)	京都生協の歴史	社会の動き
2000年			
46万7,387人 61,489百万円	府内全域	キャンパスの回収・リサイクルがスタート 食の安全基本政策を決定 卵パックの回収・リサイクルがスタート あみの生協と組織的合同 「共同購入利用の約束ごと」「店舗活性化・事業継続にかんするルール」策定 「京都生協コープ商品開発・見直しマニュアル」策定 「食の安全基本政策」決定 「食品の安全を確保するための、食品衛生法の改正と充実強化を求める請願書」に取り組む 商品政策見直し委員会を設置 商品活動推進委員会で食生活についての取り組みがスタート 「コープ牛乳産直交流協会創立10周年記念大産直交流会」開催 (株)コープ品質管理研究所設立 コープ西陣オープン コープ烏丸が移転・増床オープン 上鳥羽閉店	食生活指針が策定される 遺伝子組み換え食品の安全性審査の手続きを告示 容器包装リサイクル法が施行される 循環型社会形成推進基本法が成立 国内で口蹄(こうてい)疫の患畜が発見される 雪印食中毒事件が発生 異物混入・異味・異臭に伴うクレーム・商品回収が相次ぐ ヨーロッパ各国で牛海綿状脳症(BSE)問題が拡大 トウモロコシ加工食品・飼料への「スターリンク」(安全性未審査の遺伝子組み換えトウモロコシ)混入事件が発生 生鮮食料品の原産地表示が義務化される 有機JAS規格が義務化される 残留農薬基準の設定数が299品目になる
2001年			
47万3,339人 62,682百万円		商品政策を改定 京都生協のホームページが誕生 「京都生協コープ商品開発・見直しマニュアル」第2版を策定 牛海綿状脳症(BSE)について取り組む 「生産者と消費者が手をつなぎ、狂牛病危機を乗り越える決起集会」開催 安全性未審査の遺伝子組み換えジャガイモ混入菓子に対応 コープ京田辺オープン コープ城陽オープン コープ山科東、吉祥院、深草、勧修寺、かめおか、ふくちやまを閉店 コープ住まいの情報館オープン	「食品衛生法施行規則」および「乳等省令」の改正によるアレルギー表示制度がスタート 「資源の有効な利用の促進に関する法律」(資源有効利用促進法)の改正により容器包装識別表示が義務化される 「食品衛生法の改正・運用強化等に関する請願」が再請願される 遺伝子組み換え食品の安全性審査が義務化される 牛由来の肉骨粉の飼料としての使用が禁止される 屠畜及び食肉処理に際しての法的規制 牛海綿状脳症(BSE)についての屠畜時全頭検査 イギリスで口蹄(こうてい)疫が発生、EU諸国に拡大 国内で初めて牛海綿状脳症(BSE)の畜牛が発見される 遺伝子組み換え食品の表示が義務化される 厚生省と労働省が統一されて厚生労働省になる 北アメリカ産ジャガイモを原料とする菓자에安全性未審査の遺伝子組み換えジャガイモ「ニューリーフプラス」が混入する事件が発生

組合員数 供給高	活動エリア (赤字は新たに 加わったエリア)	京都生協の歴史	社会の動き
2002年			
48万8,176人 61,489百万円		e-CanVass(インターネット受注)がスタート 全事務所で ISO14001(国際環境管理規格)の認証を取得 「ほっと深谷」オープン 福知山ホームヘルプサービス開設 雪印食品によるBSE対策事業に関わる偽装事件に対応 ヨコオの不適正生産販売に対応 林兼産業の仕様・表示違反に対応 産地・取引先の緊急点検をスタート 取引先緊急研修会を開催 2002年の「確かさと適正表示を推進する取り組み」を行う 食品の香料に未認可の物質が使用された問題に対応 コープ商品の包装の原材料名(アレルギー表示含む)について、お問い合わせへの対応を改善 コープ二条駅オープン	中国産野菜の輸入時検査が強化される 冷凍ホウレンソウの輸入自粛指導 BSE問題に関する調査検討委員会報告が出される 牛海綿状脳症対策特別措置法 「農林物資の規格化等に関する法律」(JAS法)が改正される 食品衛生法が改正される 農薬取締法が改正される 水産庁が魚介類の表示名称の取り扱いについて中間とりまとめ(案)を公表 厚労省が脱脂粉乳の製造基準等を改正 雪印食品によるBSE対策事業に関わる偽装が発覚 食品偽装、不適正表示などが各地で発覚 中国産野菜から国の基準を超える残留農薬が検出される 国内で4・5・6・頭目の牛海綿状脳症(BSE)感染牛が見つかる 無登録農薬の販売が全国的に広がっていたことが明らかになる 食品の表示に関する共同会議 厚労省がフェリシアン化合物を指定添加物とする食品容器包装等へのフタル酸エステル類を含む塩化ビニルの使用規制 指定外添加物・TBHQ使用肉まん事件発生 違反香料を使用した食品の自主回収が相次ぐ 中国産ダイエット食品による健康被害事件で4人が死亡 食品中のアクリルアミドの調査結果を厚労省が発表 農作物中のカドミウムの調査結果を農水省が発表
2003年			
43万3,558人 65,154百万円		生活協同組合連合会コープきんき事業連合(コープきんき)の設立に参加 北部物流センター稼働 中京ホームヘルプサービス開設 JA滋賀県本部食品工場製造の京都コープ商品の取引を停止 前年から、ヨコオ生産の京都生協コープ商品の鶏肉および加工品の取り扱い再開への取り組みを継続 山城養鶏生産者組合の卵の異味・異臭クレームに対応 北部物流センターに中丹、舞鶴支部を統合した新中丹支部を開設	特別栽培農産物に係る表示ガイドラインが改正される 食品安全基本法が公布される 景品表示法が改正される 牛海綿状脳症(BSE)対策で、食品衛生法の一部が改定される 水産庁が魚介類の表示名称の取り扱いについて中間まとめを公表 牛海綿状脳症(BSE)対策で、食品衛生法の一部が改定される カナダで1頭目の牛海綿状脳症(BSE)の畜牛が見つかる 中国産冷凍ウナギから抗生物質が検出される 『国産干しいたけ』に中国産シイタケの混入が判明 アメリカで1頭目の牛海綿状脳症(BSE)感染牛が見つかる

組合員数 供給高	活動エリア (赤字は新たに 加わったエリア)	京都生協の歴史	社会の動き
2004年			
43万8,698人 64,564百万円		創立40周年企画を開催 新しい福祉政策を決定 前年から、山城養鶏生産者組合の卵による異 味・異臭クレームに対する対応と「再発防止と信 頼回復」に向けての取り組みを継続 京都府丹波町で高病原性鳥インフルエンザが 発生したことに対応 京都府と締結している「災害時における応急対 策物資供給等に関する協定書」に基づき、台風 23号で被災した舞鶴市で、復興支援活動を行う	手延べ干しめんの特定JAS制定 鳥インフルエンザが日本に上陸 鳥インフルエンザがアジア各国で猛威を振るう 鹿児島県の豚が豚コレラ検査で相次ぎ陽性と 診断される 台湾産冷凍ウナギから合成抗菌剤が検出される 公正取引委員会が外国産塩を「国産」と表示し た9社に警告を出す
2005年			
44万5,174人 64,594百万円		右京ホームヘルプサービス開設 核不拡散条約(NPT)再検討会議へ向けて代表 を派遣 鶏卵トレーサビリティシステム本格稼働 前川商店によるうなぎの産地偽装事件に対応 京都生協「鶏卵の品質保証システム」を導入 新南部物流センター稼働 西中支部、城南支部開設、支部統合で12支部 になる	鳥インフルエンザが世界で猛威を振るう
2006年			
45万3,085人 69,156百万円		左京ホームヘルプサービス開設 ユニセフオースタディーツアーに代表派遣 洗剤政策を改定 米国産牛肉の輸入再開に当たって声明を発表	食品中に残留する農薬等のポジティブリスト制が 導入される ノロウイルスによる食中毒 宮崎県・岡山県で高病原性鳥インフルエンザが 発生 アメリカ産牛肉の輸入が再開される
2007年			
46万5,876人 70,343百万円		「容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞」受賞 コープ葵湯デイサービスセンター開設 「店舗活性化・事業継続にかんするルール」改定 「3R推進協議会会長賞」受賞 独自の「品質保証システム」に基づく点検を実施 コープ祝園駅オープン コープかどの四条オープン コープ醍醐石田オープン コープうめづ、石田閉店。	ミートホープ社が原材料を偽ったミンチを原料とし て出荷していたことが判明 赤福餅の不適正表示が発覚
2008年			
47万2,528人 70,409百万円		「厚生労働大臣表彰」を受賞 臨時総代会を開催 中国産「CO・OP手作り餃子」による食中毒事件 に対応 コープむこうし、メイティ、大手筋閉店	改正生協法が施行される 中国・韓国産のワカメを混ぜた製品を「鳴門わか め」と表示していた虚偽表示が発覚 アレルギー物質を含む食品に関する表示が改正 される 事故米穀の不適正流通が発覚

組合員数 供給高	活動エリア (赤字は新たに 加わったエリア)	京都生協の歴史	社会の動き
2009年			
48万2,036人 69,054百万円		「第14回環境保全型農業推進コンクール」特別 賞受賞 「福祉・くらしの相談窓口」開設 商品政策を改定、「産直商品」の基準を制定 気 候 変 動 枠 組 条 約 第 1 5 回 締 約 国 会 議 (COP15)へ向けて代表を派遣 コープフードサービス事業をスタート コープ桃山オープン ユニセフ活動20周年、ラオスタディツアーに代 表派遣 COP15に代表派遣	消費者庁が発足 米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地 情報の伝達に関する法律(米トレーサビリティ法) が成立 花王エコナに関する騒動